



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

進化し続ける組織 ～組織改編と業務改善～

本年4月、行政組織の改編を実施いたします。その目的は、担当する政策や業務のまとまりと責任体制をより明確にし、地域のニーズに即応する機動的な行政運営を実現することにあります。あわせて、市民の皆さまにとっても窓口がより分かりやすくなるものと考えています。

8年前、部を集約する組織改編を行いました。これは、近年、行政ニーズが複雑化し、部門を跨ぐ連携が必要となる政策が急増していることから、分野横断的な調整機能を強化するためでした。その体制下で「横の連携」という組織文化が根付いてきたこと、また、幅広い福祉業務の一元化や、市役所の建設事業全般に関与する組織が確立してきたことなどを踏まえ、この度、さらなるスピード感をもって政策を展開できるよう、組織を進化させようとするものです。なお、部門を跨ぐ調整機能についても、副市長二人と企画政策監が連携・協力することで、むしろ強化していきます。

新体制のもと、これまでの慣習にとらわれず組織全体の生産性を徹底的に高め、窓口での丁寧な対応

や迅速な課題解決といった、行政の本質的な「機能」をさらに引き上げてまいります。

これまで、最新の情報技術も取り入れ、業務の効率化を進めてまいりましたが、その目的は、市民と市役所との接点を機械的・画一的に処理することではありません。むしろ、事務作業を可能な限りスマートに完結させることで、職員が住民と向き合い、じっくりと直面する課題や未来への想いを聴く時間を確保したいのです。技術を賢く使いこなすことで、これまで以上に「人の温もり」を感じていただけるような、身近な市役所へ近づけていきたいと考えています。

どのような体制になっても、それを動かすのは職員一人ひとりの意識です。現場の課題を自分のこととして捉え、自律的に考え行動する「自走する組織」へと質を高め、複雑化する社会の変化に柔軟に対応してまいります。

今回の改革は、将来にわたって信頼される組織を築くための、一つの通過点です。新体制のもと、全職員が一丸となって市政の発展に取り組んでまいります。新しく歩み出す本市の市政に、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

【申意をお伝えする方法が変わります】

令和8年4月1日から、従来の弔電郵送に代わり、お届けいただく窓口にて直接申意の書面をお渡しする形へと変更させていただきます。郵送から手渡しへと形は変わりますが、窓口にて直接お悔やみを申し上げ、ご遺族に寄り添う気持ちが伝わるよう努めてまいります。

吉備国際大学からのお知らせ

農学部 卒業論文発表会を開催

2月10日、南あわじ志知キャンパスの大講義室で、農学部4年生による卒業論文発表会を開催しました。

当日は、地域創成農学科と醸造学科の学生たちが、4年間の学びの成果を披露しました。会場には試行錯誤を重ねて作成した研究ポスターがずらりと並び、発表者たちは、訪れた教職員や学生、保護者を相手に、自らの言葉で一生懸命に解説しました。会場のあちこちで熱心な質疑応答が交わられるなど、活気あふれる時間となりました。

研究テーマは多岐にわたり、醸造学科からは、「学内の自然素材を活かした食品研究」や「身近な未利用資源の有効活用に向けた化学的分析」など、事例が少ない中で実験を重ねた粘り強い探究成果が見られました。また地域創成農学科からは、「安定生産に向けた最新の栽培技術」や「農業経営の法人化に向けた課題」など、生産の現場から地域の将来までを見据えた、農学部ならではの幅広い知見が揃いました。

図表を指差しながら熱心に語る学生たちの表情からは、研究対象や地域の課題と真摯に向き合い、試行錯誤しながら探究を深めてきた確かな成長が感じられました。学生たちはこの春、4年間の学びを糧に、それぞれの場所へ新たな一歩を踏み出します。本学はこれからも、学生一人ひとりの可能性を信じ、地域に根ざした学びの場として、皆さまと共に歩んでまいります。

【オープンキャンパスのお知らせ】

◆日時 3月15日(日) 13:00～15:30

◆場所 吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

◆内容 学科紹介、ミニ講義、個別相談など

◆申込み・問合せ(要予約)

ホームページからの申込みもしくは電話予約 (入試広報室フリーダイヤル ☎ 0120-25-9944)

※メールアドレスをお持ちでない人は、電話にてお申込みください

※申込確認メールを受け取るには、お使いのモバイル機器の接続を確認し、「パソコンから受信」できるようにしてください

東京大学先端科学技術研究センターと地域課題の解決に向けた包括連携協定を締結

市は、東京大学先端科学技術研究センター（以下、東大先端研）と包括連携協定を締結し、2月9日に協定締結式が行われました。

東大先端研は、1987年に設立され、学際的な視点から社会科学やバリアフリーなどの社会システムに関わる研究に加え、理工学分野の先端技術開発にも積極的に取り組んでいます。地域社会に貢献する多彩な研究活動が特色です。

本協定により、市と東大先端研は互いに連携・協力しながら地域の課題解決に取り組み、学術の発展や人材育成、そして地域の活性化を目指しています。



包括連携協定を締結した東大先端研の杉山正和所長(右)と守本市長

市の活性化に向けた地域おこし協力隊の取り組み 隊員の活動報告会を開催

地域おこし協力隊とは、都市地域から過疎化の進む地域に移住して、地域の問題解決や活性化のための活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る総務省の制度です。

現在2人の隊員が活動中で、岡部隊員は阿万地区の活性化、長坂隊員は未利用・低利用魚の需要拡大に関することなど、さまざまな活動に取り組んでおり、2月6日に、活動報告会を開催しました。報告会では、令和7年度活動状況の報告やパネル展示を行いました。

隊員は、新たな環境で生活をスタートし、地域の皆さんとともに南あわじ市を盛り上げるべく、日々奮闘しています。

隊員の今後の活動に対するご支援、ご協力をお願いします。



(左から)南あわじ市地域おこし協力隊の長坂美梨 隊員と岡部裕人 隊員

災害時に避難所で活用 南淡路ロータリークラブが避難所用簡易テントを寄贈

南淡路ロータリークラブから、災害時における避難所での活用を目的にテント10張りが寄付され、1月30日、市役所で贈呈式が行われました。

南淡路ロータリークラブは、昨年、市民の防災意識向上を図るため、講師を招いて防災講演会を開催するなど、防災をテーマとした活動に積極的に取り組まれています。

今回寄贈されたテントは避難所に配備し、災害時の避難生活においてプライバシーの保護や感染症対策など、幅広く活用します。



避難所用簡易テントを寄付した南淡路ロータリークラブの印部浩史会長(左)と守本市長